

	<h2 style="color: blue;">加治さんとの思い出</h2> <p style="color: blue;">SCE・Ne+ 澁谷 徹</p>	<p style="text-align: right;">E-128</p> <p style="text-align: right;">発行日 2020.7.8</p>
---	--	--

加治さんというと、「足柄山の金太郎さん」が思い浮かぶ、気は優しく力持ち、腕相撲の強い友人であった。2020年3月帰らぬ人となってしまった。

彼と出会ったのは大学で化学工学科を専攻した1962年春のことである。彼は大分県、私は東京の高等学校出身であり、化学工学科で所属した研究室も異なっているのに、何が切っ掛けになったのか今になっては思い出せないが、「何となく馬が合ったのだろう」、その年の初夏の新緑が美しい東北を十日間ほどで旅行したのが「付き合い」の始まりだった。海岸の近くを時計回りに一周するという計画で学割周遊券を購入し、宿の手配は全くせずに、まずは新潟行きの列車に乗って出発した。旅先の思い出の“地”として最初に浮かぶのは、龍飛崎である。三厩からバスに揺られて龍飛崎まで乗っていたのは、吾々二人だけであった。幸いにも、バス停近くの食堂で泊めてもらえるようになった。そして、食堂の家の小学生の男の子が岬の先端まで案内してくれることになった。岬の先端の廃校になった小学校のグラウンドには、青函トンネル関連の資機材が沢山並べられていた。案内してくれた男の子の津軽弁を全く理解できなかったことが懐かしく思い出される。その後、加治さんは私の家にも何度か泊まりに来ることがあった。ある時、私の母に相談したいことがあると言うので、私は席を外した。後になって、母から「結婚について相談されたので『ご両親が喜んでくれる方と結婚なさい』と言った」と聞いた。彼の意中の女性は、彼の紹介で私は既に数回会ったことのある、のちの加治夫人であった。66年修士課程を修了し、彼は呉羽化学、私は旭硝子に就職した。68年勿来の社宅に住む新婚の加治家を、友人とドライブ旅行がてら押しかけたのも、懐かしく思い出される。私が75年に五井の工場へ転勤した時、彼は既に袖ヶ浦の住人であった。お互い社宅が近く、小さな子供を含め家族ぐるみの付き合いとなった。彼が千葉を離れてからは、お互いに仕事が忙しいこともあり、年賀状交換だけの状態となった。

大学の化学工学科昭和39年卒の学生は32名である。卒業後は「39CE会」と称して卒業の翌年から新年会を開催してきたが、会社などを離れてフリーになった人が多くなってからは、ほぼ毎月何らかの集まりを開催し続けてきているという「仲間たち」である。加治さんから「他社の技術開発について、若い技術者たちに話を聞かせたいので」と依頼され、数名が講師となって対応したこともあった。

また、加治さんの故郷である竹田を訪ねる「2011 年秋の 39CE 会旅行」を幹事として、岡城を始め市内の案内と夜の宴会（私は初めて‘馬刺し’を食した）を取り仕切ってくれた。彼を含め 13 名の参加で、楽しい思い出となっている。

私はフリーになって、2004 年春大学の先輩の勧誘により、SCE・Net に参加することになった。「39CE 会」のメンバーもフリーになる友人が多くなってきたので、SCE・Net への勧誘を行い、時期は前後するが 5 名が加入してくれた。加治さんも私が担当幹事の「安全研究会」のメンバーとなってくれた。彼は「減圧室」の事業を竹田で始めて、勿来と竹田の二重生活となり忙しくしていたが、竹田に出発するとき、浜松町の駅ビル内の店で軽く飲みながら昼食を数回共にしたことも懐かしく思い出される。私が、大動脈乖離で入院していた時も竹田への出発前に五反田の病室へ見舞いにきてくれた。

2018 年暮れ、加治さんから電話があった。「すい臓癌であること。手術ができないほど進行していること。今は漢方薬を服用しているが、これ以上のことはしないつもりであること。」を告げられた。青天の霹靂であった。彼は淡々とした口調で話していたが、聞く私は狼狽えるだけであった。「いつなら会えるか」と聞いたら、「来年は 39CE 会に参加し、皆さんに伝えるから、そこで会おう」と言われた。39CE 会の 9 月例会は、八重洲の居酒屋で開かれた。加治さんは外見からは、全くいつもと変わらぬ様子で、皆との談笑に興じていた。久しぶりに参加している加治さんの近況を聴くことになった。彼は「すい臓癌であること。余命は半年程度と言われていること。台湾から取り寄せている漢方薬を服用していること。」などを、平静な様子で話した。聞いている皆は声が出なかった。「来年 5 月過ぎまで元気でいたら、勿来のコースでゴルフをしよう」ということになったが、実現されなかった。

2020 年 3 月、加治さんの葬儀は勿来の斎場で執り行われた。「何となく馬が合っ」60 年近くの付き合いとなった。心から、ご冥福を祈る！